



株式会社 UACJ

2025 年 3 月期 本決算説明会

2025 年 5 月 13 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ
[企業 ID]	5741
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2025 年 3 月期 本決算説明会
[決算期]	2025 年度 第 4 四半期
[日程]	2025 年 5 月 13 日
[ページ数]	35
[時間]	19:00 – 19:50 (合計：50 分、登壇：23 分、質疑応答：27 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	77
[登壇者]	6 名 代表取締役 社長執行役員 田中 信二 (以下、田中) 取締役 川島 輝夫 (以下、川島) 取締役 専務執行役員 経営戦略本部長 隈元 穰治 (以下、隈元)

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



副社長執行役員 板事業本部長	橋本 圭造 (以下、橋本)
執行役員 財務本部長	岡田 浩三 (以下、岡田)
財務本部 IR 部長	上田 薫 (以下、上田)

[アナリスト名]*	SMBC 日興証券	山口 敦
	モルガン・スタンレーMUFG 証券	白川 祐
	野村證券	松本 裕司
	UBS 証券	五老 晴信

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

上田：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。本日は大変お忙しい中、株式会社 UACJ2024 年度決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この説明会は、株式会社 UACJ のホームページに掲載されております説明資料を使って行います。お手元に資料をご用意されていない方がいらっしゃいましたら、お手数ですがホームページをご覧ください。

なお、この説明会では将来予測を含む情報が提供されることがありますが、これらの情報は当社の現時点での予測に過ぎません。さまざまな要因により、実際に業績がこれら将来予測と大きく異なる場合がありますのでご注意ください。

では、本日の当社出席者をご紹介します。

代表取締役社長執行役員、田中信二です。

田中：田中です。本日はどうぞよろしく願いいたします。

上田：取締役、川島輝夫です。

川島：川島です。本日はよろしく願いをいたします。

上田：取締役専務執行役員経営戦略本部長、隈元穰治です。

隈元：隈元でございます。よろしく願いいたします。

上田：副社長執行役員板事業本部長、橋本圭造です。

橋本：橋本です。よろしく願いいたします。

上田：執行役員財務本部長、岡田浩三です。

岡田：岡田でございます。本日はよろしく願いいたします。

上田：私は本日司会を務めます財務本部 IR 部長、上田薫でございます。どうぞよろしく願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

それでは、本日発表いたしました2024年度業績につきまして、代表取締役社長執行役員の田中よりご説明させていただきます。プレゼンテーション資料をご覧くださいながらご参加ください。田中社長、よろしくお願いいたします。

田中：田中でございます。本日は大変お忙しい中、株式会社UACJ2024年度決算説明会へご参加いただきましてありがとうございます。

発表のポイント

- 2024年度の事業利益*は**459億円**(前期比 +25億円)
- 2025年度の事業利益予想は**460億円**(前期比 +1億円)

- 2024年度実績 事業利益 459億円**(前期比 +25億円)
 - ✓ 国内: 上期における缶材、厚板等の販売が順調に進捗し、収益を確保
 - ✓ 海外: 北米を中心に、グローバルにおいて継続する好調な缶材需要を捕捉
- 2025年度業績予想 事業利益 460億円**(前期比 +1億円)
 - ✓ 世界経済に先行きの不透明感はあるも、米国缶材市場の急激な変化はないと想定
 - ✓ 米国関税政策はリスクとして認識するも、現状、業績への直接的な影響は限定的なため未織り込み
 - ✓ 年間配当金は、10円増配の160円/株(配当性向36.2%)を予定

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 事業利益 : 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの

1

決算の内容につきましてご説明させていただきます。

1ページ目になりますけれども、決算説明に先立ちまして、まず全体のポイントをお伝えいたします。

まず、2024年度の事業利益は前期比25億円増の459億円、2025年度通期の予想は前期比プラス1億の460億ということで予想してございます。

2024年度の実績でありますけれども、国内におきましては上期、缶材・厚板等の販売が順調に進捗、収益を確保いたしました。

海外におきましては北米を中心に、グローバルにおいて継続する好調な缶材需要を捕捉した年ということになりました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2025年度の予想におきましては前期比1億増の460億円としておりますけれども、見通しといたしましては世界経済、この先行きの不透明感があるものの、北米における缶材市況の急激な変化はないと想定しております。

また米国関税政策、これはリスクとしては認識するものの、業績への直接的な影響は限定的なため、現在未織り込みとしてございます。こちらにつきましては後ほど詳細をご説明させていただきます。

年間配当につきましては10円増配の1株160円を用意して予定してございます。

1. 業績

2024年度 業績

(単位:億円)

	2023年度 (A)	2024年度 (B)	増減 (B)-(A)
売上収益	8,928	9,988	1,060
事業利益	434	459	25
棚卸資産影響等	△120	115	235
営業利益	314	574	260
親会社の所有者に帰属する当期利益	139	280	141
1株あたり当期利益(円/株)	287	585	298
Adjusted EBITDA*	798	840	42
前提条件			
LME(\$/t)	2,202	2,526	324
為替レート(円/\$)	145	153	8
為替レート(THB/\$)	35.2	34.9	△0.3
ドバイ原油(\$/B)	82	78	△4

© UACJ Corporation. All rights reserved. * Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響等

4

それでは24年度の業績につきまして報告をまいります。4ページ目をご参照ください。

2024年度売上収益におきましては、対前期比1,060億円増の9,988億円、事業利益におきましては25億円増の459億円で着地いたしました。

当期利益につきましては141億円増の280億円、EBITDAにつきましては42億円増の840億円になりました。

参考までに、その下にLMEならびに為替レート、ドバイ原油についての数値を記載してございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



1. 業績

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品種	2023年度 (A)	2024年度 (B)	増減 (B)-(A)
缶材*	791	851	60
箔地	45	42	△ 3
IT材	8	10	2
自動車材	142	134	△ 8
厚板	34	42	8
その他一般材	175	187	12
合計	1,195	1,266	71
日本市場	475	489	14
海外市場	720	777	57

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 内部取引控除後の数量

5

アルミ板の品種別売上数量についてご説明をしております。

2024年度合計は7万1,000トン増の126万6,000トンという実績となりました。

その下に市場ごとでの整理をしておりますけれども、国内市場におきましては1万4,000トン増の48万9,000トン、海外市場におきましては5万7,000トン増の77万7,000トンという結果となりました。

品種別内訳は上記に記載するのとおりですが、特に缶材ですね。TAA、UATHを中心に缶材で6万トン増、その他、厚板8万8,000トン増。

一方、箔地はマイナス3,000トン、自動車材はマイナス8,000トンという結果となりました。

サポート

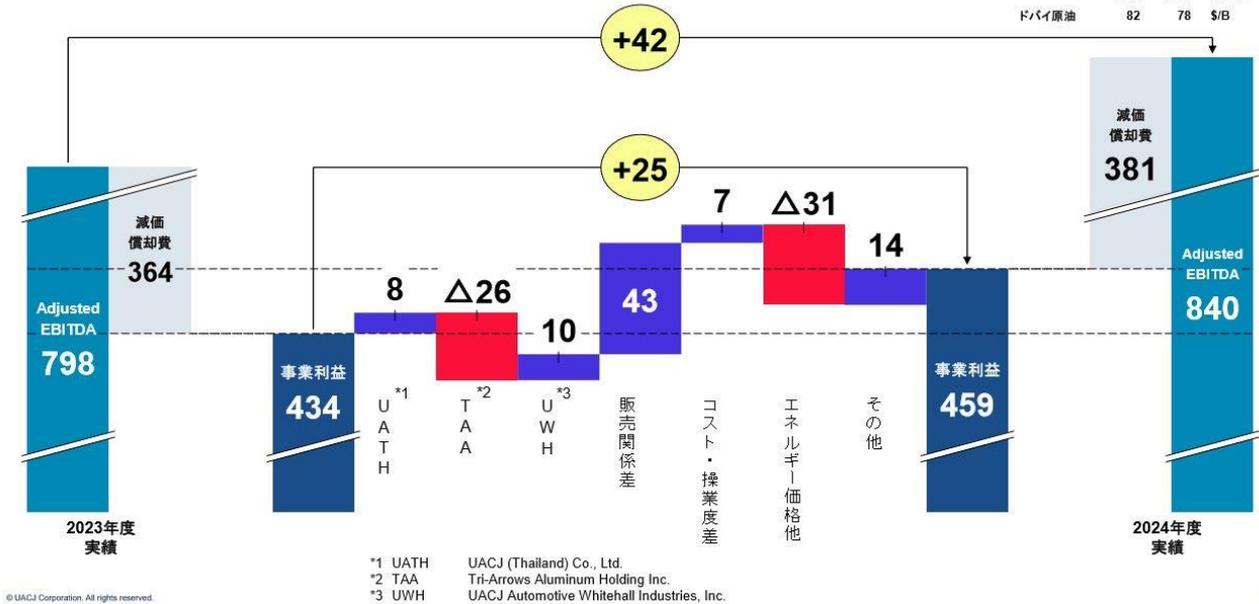
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



1. 業績

事業利益・Adjusted EBITDA 分析 (2023年度 → 2024年度)

通期前提条件 (FY23 → FY24)			
LME	2,202	2,526	\$/t
為替レート	145	153	円/\$
	35.2	34.9	THB/\$
ドバイ原油	82	78	\$/B



6

24年度の事業利益 EBITDA 分析となります。ウォーターフォールでご説明いたします。

一番外に EBITDA の実績を記載してございます。2023 年度 798 億円に対しまして 42 億円増の 840 億円事業、事業利益におきましては 434 億円から 459 億円への 25 億円増になってございます。

その内訳ですけれども、UATH におきましては数量構成、こちらでプラスになりました。

一方、原材料価格がアップしたこともあってトータル 8 億円の増。

TAA におきましては特に原材料価格、このところの上昇がありました。数量増でカバーいたしましてトータルマイナス 26 億。

UWH におきましては、販売は伸び悩みましたがコスト削減等の施策を実施してプラス 10 億。

その他販売関係差におきましては、数量構成差等がプラスに大きく寄与いたしまして 43 億円プラス。

一方、エネルギーのところはマイナス 31 という大きな数字になっておりますけれども、こちらにつきましてはサーチャージの期ずれ等が要因です。特にとりわけ大きなマイナスの要素があったわけではなくて、期ずれによるタイミングのずれがここに計上されてございます。

トータル 25 億増の 459 億という事業利益となりました。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

1. 業績

連結財政状態計算書

棚卸資産の増加により、運転資金が増加

連結財政状態計算書

(単位:億円)	24/3末 (A)	25/3末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び現金同等	402	263	△139
営業債権及びその他の債権	1,797	1,873	77
棚卸資産	1,879	2,441	562
その他の流動資産	234	218	△17
有形固定資産	3,852	3,943	92
その他の非流動資産	981	961	△19
資産合計	9,144	9,700	556
営業債務及びその他の債務	1,417	1,406	△10
借入金	3,109	3,407	299
その他	1,599	1,691	92
親会社の所有者に帰属する持分合計	2,770	2,906	136
非支配持分	250	290	40
負債及び資本合計	9,144	9,700	556

© UACJ Corporation. All rights reserved.

資金運用表

	使途		調達	
長期 資金	設備投資等	369	税引前利益	430
	法人税等支払	68	減価償却費	381
	配当金支払	61		
	長期資金余剰	314		
短期 資金	棚卸資産の増加	552		
	債権債務増減他	39		
			短期資金不足	591

長期資金 314 億円

短期資金 △591 億円

合計 △278 億円

7

連結財政状態計算書となります。

2025 年度末の資産合計は 556 億増の 9,700 億円。内訳といたしましては上記に記載のとおり棚卸資産が 562 億増の 2,441 億、その他有形固定資産が 92 億円増の 3,943 億円でございます、トータルとしては 9,700 億円。

負債および資本ご覧いただきますと、こちらは借入金が 299 億増の 3,407 億円となっております。

その右には資金運用表を記載してございます。設備投資、配当金支払、長期資金の余剰等を含めまして前期の利益償却によって調達をした形になってございます。

短期資金のところにおきましては、棚卸資産の増加が 552 億と大きくなってございます。

トータル、長期、短期資金合わせまして、278 億円の不足になりました。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

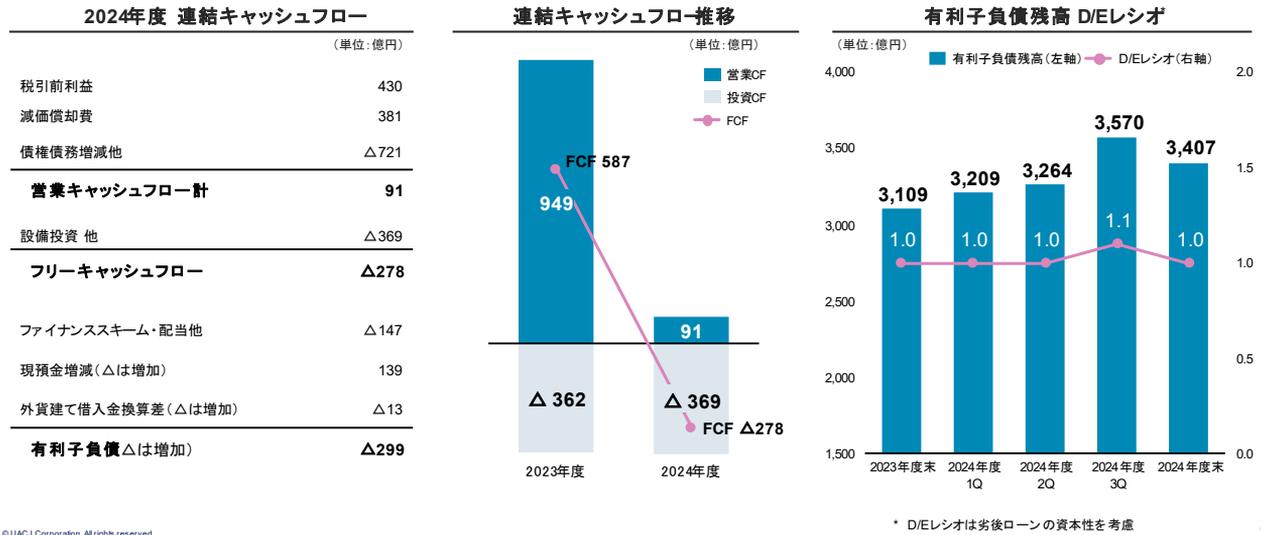
0120-966-744

メールアドレス support@scriptasia.com

1. 業績

連結キャッシュ・フロー計算書

2024年度末D/Eレシオ 目標の1.0倍を維持



キャッシュ・フロー計算書となります。

今、ご説明しましたとおり、営業キャッシュ・フローとしては計 91 億円、その他設備投資等でフリー・キャッシュ・フローとしては 278 億円のマイナスになってございます。

その他ファイナンススキーム・配当、円現預金の増減等を含めまして、有利子負債の増加は 299 億円の増になってございます。

その右側に、クォーター単位での融資負債の増減を記載してございます。最終的には 3,407 億の有利子負債、D/E レシオにつきましては 1.0 倍を維持したところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

1. 業績

タイ(UATH)の状況

グローバルでの缶材需要を確実に取り込んで販売数量を拡大し、増収増益

総括

- 需要 : グローバルでの缶材の需要は順調に推移
 販売 : 【北米向け】
 缶材需要回復に応じ、製品の出荷を継続
 【ASEAN・その他地域】
 ・新規顧客の開拓を進め、販売展開エリアを拡大
 ・12月からの中国増値税還付の廃止により、引き合いが増加
 損益 : ・為替環境の変動や原材料の高騰があるも、販売数量が拡大し、収益を確保

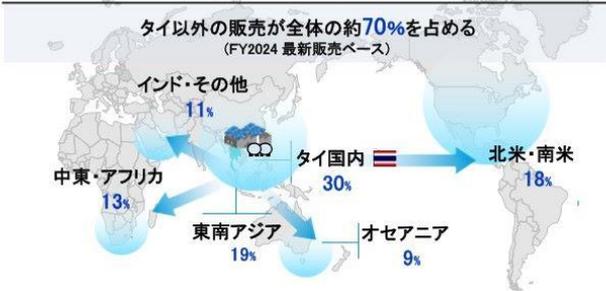
(単位:億円)	23年度	24年度	前期比
販売数量(千)*	256	306	50
売上収益	1,426	2,014	589
営業利益	5	54	49
事業利益	26	34	8

*TAAへの出荷分含む
 © UACJ Corporation. All rights reserved. ※2023年度からの業績推移はP30をご参照ください。

事業利益・Adjusted EBITDA推移(億円)



エリア別の販売比率(世界25カ国)



それでは、拠点ごと、海外の主要子会社の状況についてご説明をしております。

タイにおきましては缶材需要を確実に取り込むことで、販売数量を拡大し増収増益となりました。

左下に販売数量ならびに事業利益を記載してございますが、24年度は前期比プラス5万トン増の30万6,000トン、売上は589億円増の2,014億円、事業利益は8億増の34億円になってございます。

右の上グラフに事業利益ならびにEBITDAの推移を示してございます。EBITDAにつきましても成長したというところでございます。

特に缶材需要が順調に推移したということでありまして、北米向け、ASEAN向けいずれも、順調に拡大したというところでございます。

また、12月から中国の増値税の還付が停止になったことで、更に引き合いが増えているのが足元の状況でございます。原料価格の高騰もございましたけれども、販売数量を拡大することで収益を確保したところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



1. 業績

米国(TAA)の状況

堅調な缶材需要を取り込み増収も、コスト増により減益

総括

- 需要 : ・ 北米の缶材需要の拡大傾向は変わらない
- 生産 : ・ 高水準での生産が継続
・ 設備増強投資は順調に進捗
- 販売 : ・ 販売の好調が継続
・ 北米缶材の一部で2025年度に販売時期が変更

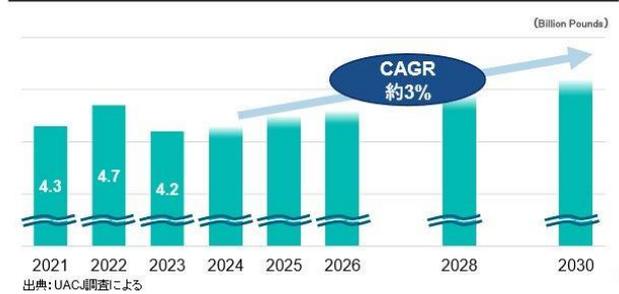
(単位:億円)	23年度	24年度	前期比
販売数量(千t)	433	449	16
売上収益	2,536	2,917	381
営業利益	200	328	128
事業利益	275	249	△ 26

© UACJ Corporation. All rights reserved. ※2023年度からの業績推移はP30をご参照ください。

事業利益・Adjusted EBITDA推移(億円)



米国缶材需要の推移



10

米国 TAA の状況になります。

こちら缶材需要は好調で、こちらを取り込んで増収したところではありますが、やはりコスト増がかなり効いてきまして減益になりました。

左下のところにやはり販売数量、事業利益記載してございます。24年度は対前期比1万6,000トン増の44万9,000トン、事業利益におきましては26億マイナスの249億円でございます。

缶材の状況、北米につきましては引き続き好調、拡大傾向というのは変わっておりません。こちらにつきましては設備増強計画もしておりますので、引き続きこのマーケットの拡大をきっちりキャッチアップしていくことで進めていきたいと考えてございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



米国(UWH)の状況

EV市場の伸び悩みにより販売量は減少も、コストダウン施策が通期で奏効して増益

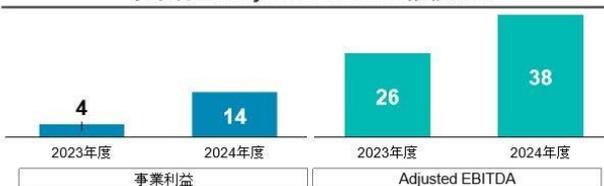
総括

- 事業** : 環境規制等により、車体の軽量化ニーズは強まる
環境 : 自動車市場全体の中長期的な成長には変化はないと見通す
 • EV市場は足元で伸び悩みも、HV/ICE市場の伸長は続く
- 販売** : 日系OEMへの安定的な販売が継続
 • 車体軽量化等の需要を取り込み、新規案件取得に向けて活動
- 増益** : EV向けの販売量が減少
 • 2023年度下期からのコストダウン施策の徹底を継続

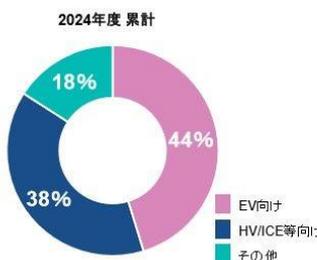
(単位:億円)	23年度	24年度	前期比
売上収益	417	375	△ 42
営業利益	11	9	△ 2
事業利益	4	14	10

© UACJ Corporation. All rights reserved. ※2023年度からの業績推移はP30をご参照ください。

事業利益・Adjusted EBITDA推移(億円)



売上構成比



FY25以降のアクション

- 米国の関税政策を背景とし顧客からの引き合いが増加
- 将来モデルの受注を見据え、開発プロセスからの取り組みに注力
- 米国の環境政策の動向を注視 (EV補助金等)

11

米国、UWH の状況になります。

こちらにつきましてはEV市場が伸び悩んでいることで販売量が減少する状況でありましたが、コストダウン施策が通期で効果を実施して、増益になりました。

売上をご覧くださいますと、売上収益は24年度対前期比42億円マイナスの375億円になりましたけれども、事業利益といたしましてはプラス10億増の14億円。

その右上にはEBITDAのグラフも記載しておりますが、EBITDAにつきましても増加という結果となりました。EV、一時的に伸び悩みということでもありますけれども、それに代わってHV、ハイブリッド等の伸びが来ていることで、この事業利益を確保したところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

グローバルでの外部環境変化に対応し、さらなる成長を目指す

2025年度の外部環境認識

- ✓ アルミニウム市場の規模は引き続き拡大を見通す
- ✓ 米国関税政策の影響による先行き不透明な世界経済
- ✓ 原材料価格が高値圏で推移
- ✓ 人件費・物価上昇
- ✓ 中国における輸出増値税の還付制度廃止

2025年度の方向性

- ✓ 伸長する缶材需要に対し、日・米・タイで増産体制を整える
- ✓ 米国関税政策から受ける影響は限定的であり、米国缶材市場の急激な変化はないと想定
- ✓ 原材料価格の上昇を業績予想に織り込む
- ✓ 販売価格改定効果を一部織り込む

© UACJ Corporation. All rights reserved.

13

それでは、2025年度の業績見込みに移ってまいります。

25年度、外部環境変化が大きいということで、こういった認識のもとに25年度の予測をしております。

外部環境認識といたしましてはアルミ市場は引き続き拡大傾向であること、それから、米国関税政策の影響、ここはやはり引き続き先行き不透明な経済状況にある。原料価格は高騰、高値圏で推移しそうなこと、人件費・物価は上昇する、中国における輸出の増値での還付が廃止になったこと。

こういった外部環境の変化を受けまして25年度、方向性として、日・米・タイで伸びる缶材需要に対応していくこと。

それから米国関税、各種いろんな情報が流れておりますけれども、私どもが受ける影響は限定的であること、あわせて缶材市況としては大きな変化はないと想定しているということでございます。

原材料価格の上昇は今回、業績の中に織り込み、販売価格の改定についても一部織り込んだ状況でございます。

サポート

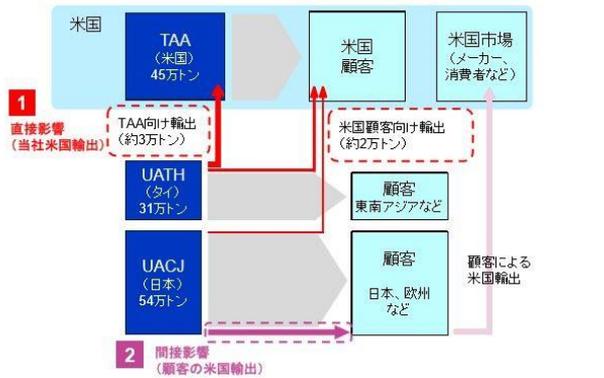
日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. 業績予想

アルミニウム製品を取り巻く米国追加関税とその影響

現段階では、グループ全体で大きな影響はないものと想定しているが、引き続き関税の動向を注視する

■ 板事業の販売構成 ※数値は2024年度販売数量



■ 米国缶材市場の構成 (2024年) ※UACJ推定



© UACJ Corporation. All rights reserved.

■ UACJグループへの影響

分野	UACJグループへの主な影響	緑色: ポジティブ影響 黄色: ネガティブ影響
1 直接影響		
缶材	<ul style="list-style-type: none"> 25年は契約済みの販売量に大きな変動はない見込み 26年以降は、追加関税・適用除外制度の廃止を受け、タイからの販売が減少する可能性 	
自動車関連材	<ul style="list-style-type: none"> 米国内競合の工場閉鎖を受け、日本・タイから輸出する自動車関連材の販売が増加する可能性 	
2 間接影響		
自動車関連材	<ul style="list-style-type: none"> 日本、またメキシコ等から米国への輸出台数の減少により、自動車関連材の販売が減少する可能性 	
日本の顧客が米国へ輸出するアルミニウム部品	米国内に代替供給先がない製品が多いため、販売が短期間で減少する恐れは低い	
■ 米国拠点(TAA、UWH)への影響		
缶材	<ul style="list-style-type: none"> 米国製缶メーカーの地産地消傾向がさらに強まり、TAAは取引量が增加 	
自動車関連材	<ul style="list-style-type: none"> 米国OEMの米国製部品への切り替えにより、UWHへの部品引き合いが増加する可能性 	
原材料	<ul style="list-style-type: none"> 新地金価格(MWP)は上昇 スクラップ価格は今後の動向を注視 	

*MWP ミッド・ウエスト・プレミアム

14 ページのところに、アメリカの追加関税の影響ということで記載してございます。この中では直接影響ならびに間接影響を、ポジティブ要因、ネガティブ要因に色分けして記載してございます。

直接要因で一番気になるところは缶材ですが、缶材につきましては25年の契約が済んでいること、それからお客様の除外申請が25年度中にわたって続くこともあって、こちらについては25年度も大きな影響はないだろうと見込んでいます。

一方、26年度からは、ここはよく注意をする必要があるということです。自動車関連のところにつきましては、北米の同業他社が工場閉鎖をするとの情報もあり、日本・タイから輸出する自動車関連の販売が増加する可能性が出てきているところでございます。

その他間接的な影響として、日本またはメキシコからアメリカへの輸出数量が減ることで、全体量が減ることもネガティブ要因としては考えられることです。

今回の予測の中には、大きな数量ではないこともあってこの中には含んでおりません。

その他、右下には米国拠点での影響。こちらはポジティブ要因が多くありますけれども、TAAの取引量ならびに部品の引き合い等々のポジティブ要因がその後、出てくるだろうと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



トータルといたしまして総じてマイナス方向にシフトした場合、弊社としては大体 10 億から 20 億程度の影響であると考えております。

2. 業績予想

2025年度 通期業績見通し

(単位:億円)

	2024年度実績 (A)	2025年度見通し (B)	差異 (B)-(A)	
売上収益	9,988	10,400	412	
事業利益	459	460	1	
棚卸資産影響等	115	△ 10	△ 125	
営業利益	572	450	△ 122	
親会社の所有者に帰属する当期利益	280	200	△ 80	
1株あたり当期利益(円/株)	585	442	△ 143	
Adjusted EBITDA	840	855	15	
年間配当	150円/株	160円/株	10円/株	
前提条件	LME(\$/t)	2,526	2,500	△ 26
	為替レート(円/\$)	153	145	△ 8
	為替レート(THB/\$)	34.9	34.5	△ 0.4
	ドバイ原油(\$/B)	78	80	2

© UACJ Corporation. All rights reserved.

15

そういった前提をもとにして、25年度の通期見通しとなります。

25年度通期見通しは、売上収益といたしましては 412 億円増の 1 兆 400 億円、事業利益といたしましては 460 億円、当期利益といたしましては 200 億円を見込んでございます。

EBITDA につきましても 15 億円増の 855 億円。年間配当につきましては 10 円増の 1 株 160 円を予定しております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2. 業績予想

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品種	2024年度実績 (A)	2025年度見通し (B)	差異 (B)-(A)
缶材*	851	928	77
箔地	42	42	0
IT材	10	11	1
自動車材	134	136	2
厚板	42	47	5
その他一般材	187	187	0
合計	1,266	1,351	85
日本市場	489	490	1
海外市場	777	861	84

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 内部取引控除後の数量

16

アルミ板の品種別売上数量でございます。

2025年度は、見通しとして135万1,000トン、対前期比8万5,000トンの増で計画をしております。

その下に市場ごとのところを見ていただきますと、やはり海外市場のところはタイ、米国を中心に増えてることで、品種別に見ても缶材が大きく伸びる計画になってございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

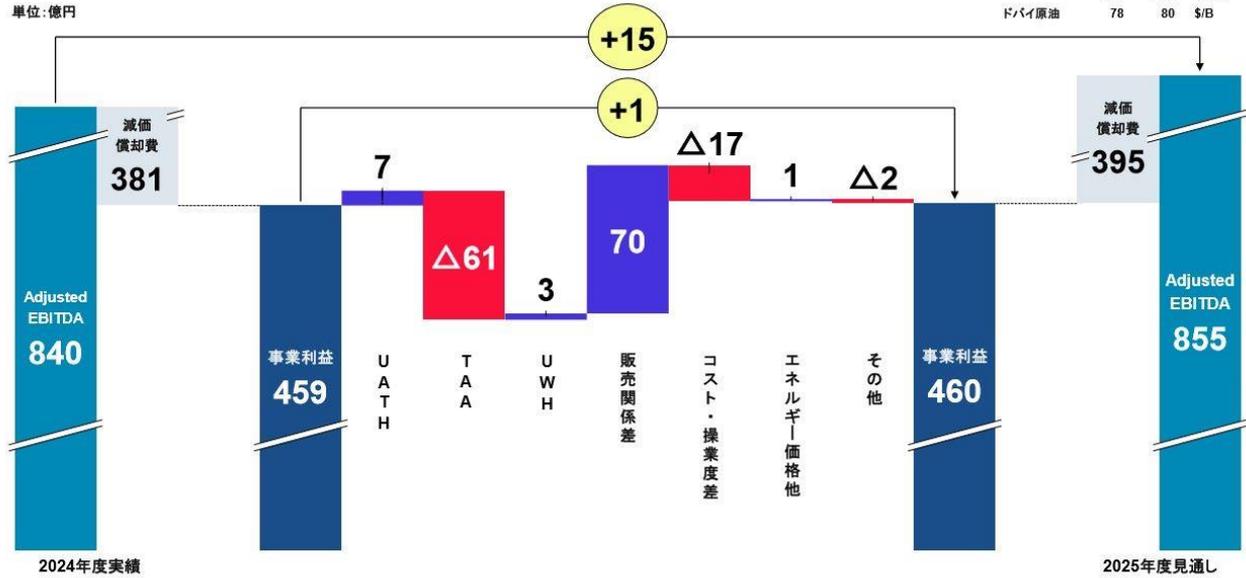
メールアドレス support@scriptasia.com

2. 業績予想

事業利益分析 (2024年度 → 2025年度)

通期前提条件 (FY24 → FY25)			
LME	2,526	2,500	\$/t
為替レート	153	145	円/\$
	34.9	34.5	THB/\$
ドバイ原油	78	80	\$/B

単位: 億円



© UACJ Corporation. All rights reserved.

17

事業利益の分析のところになります。

EBITDA につきましては 840 億円から 855 億円で 15 億の増、事業利益につきましては 460 億円と予定してございます。

大きな中身の変更といたしましては UATH、ここは数量構成差でプラス。TAA につきましては特に原料コストのところ、それから償却、円換算等のマイナスがありまして 61 億のマイナス、UWH につきましては 3 億、販売関係差等につきましては数量構成差等で大きくプラスで 70 億と、トータルとしては 460 億円を予定してございます。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2025年度は中計期間中で計画する設備投資を前倒して実施予定

(単位:億円)		2024年度 実績	2025年度 見通し	2024~27年度 計画
設備投資	一般投資	188	223	820
	戦略投資	231	322	780
	合計	419	545	1,600
減価償却費		381	395	1,600

© UACJ Corporation. All rights reserved.

18

設備投資になります。2025年度の見通しといたしましては545億円、特に戦略投資のところ
322億円とございますが、特に中期、まず中計末に向けて新たな成長投資をしていくということで
計画してございます。

サポート

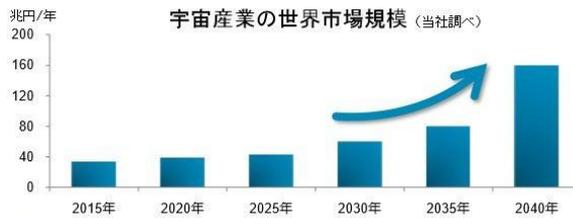
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

航空宇宙・防衛、半導体製造装置向け厚板焼入れ材生産能力を倍増

深谷製造所へ厚板焼入れ材製造設備を導入

- ✓ 日本最大規模・高効率な設備で、より高品質な製品分野へ
- ✓ 厚板専門工場としての総合力を向上
- ✓ 海外材からの切り替えを目指し、拡販へ

投資総額	約110億円
稼働開始	2027年度下期
生産能力	年間約10,000トン
需要分野	航空機材、宇宙関連材、 防衛装備品、半導体製造装置



深谷製造所全景

19

成長投資の一例ということで、本日 11 時の段階でプレス発表させていただきましたが、中計の中の素材プラスアルファの重要分野として定めております先端分野、サプライチェーンの安定化に向けて、特に航空宇宙・防衛装備品に関する厚板焼入れ設備増強を計画してございます。投資金額としては 110 億円、稼働開始は 2027 年、生産能力は約 1 万トンを予定しております。

とりわけ、このところにおきましては最も成長が期待される分野ということもあって、日本最大規模での設備導入を計画し、グループ全体での生産能力の倍増を計画してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

年間配当金は、160円/株を計画

第4次中期経営計画期間 還元方針

安定的かつ継続的な配当を目指す

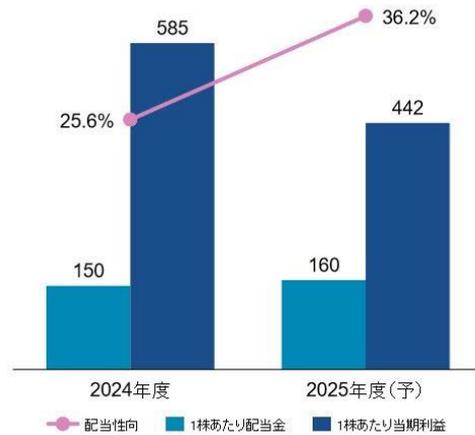
⇒第4次中期経営計画(24~27年度)期間中の
配当性向は最終利益*の30%以上が目標

株主還元の実施および実施見通し

	2024年度	2025年度
最終利益	280億円	200億円
年間配当	150円/株	160円/株
配当性向	25.6%	36.2%
自己株式取得	(2025年2月) 300万株 / 151億円	

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 最終利益：親会社の所有者に帰属する当期利益

1株あたり配当金(円)/1株あたり当期利益(円)/配当性向(%)



20

株主還元になります。2025年度最終利益は200億円になりました。年間配当としては1株160円を計画してございます。配当性向としては36.2%。なお、2024年度につきましては、自己株式の取得といたしまして151億円、300万株を自己株取得してございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptasia.com

2024年度 サステナビリティ関連活動

将来的なUACJの価値を高めるための取り組み

「アルミニウムの循環型社会」の牽引
(サーキュラーエコノミー)

- 自動車部品解体プロセス等の技術実証を開始
- 「ALmitas+ SMARTマスマバランス」認証の調達原料と対象製品群を拡大
- 次世代飲料缶用蓋「EcoEnd™」の量産へ、生産体制の構築を完了
- **NEDO先導研究プログラム採択、低純度スクラップから高純度アルミニウムへのリサイクルの実現へ**
- 日本初となる、再生原料を100%利用した厚板材「ALmitas+ FusPlate SMART」を発売

気候変動への対応

- 「第10回ジャパン・レジリエンス・アワード」で「水の架け橋」が優秀賞受賞

ブランディング活動

- UWHが「ホンダ・ノースアメリカ・サプライヤー・アワード」にQuality/Delivery賞とValue In Excellence賞の2冠
- グループ製品ブランドを「ALmitas+」に統合、社会との共創を促進

多様性と機会均等の浸透

- 第4回パラリンアートコンテストへの支援を継続

将来的なUACJの価値を守るための取り組み

自然の保全と再生・創出
(ネイチャーポジティブ)

- CDP2024「気候変動」「水セキュリティ」の両部門でリーダーシップレベル評価「A-」取得

人権の尊重

- 人権デュー・ディリジェンスの実施

人的資本活用と企業価値向上と整理

- 人的資本活用による企業価値向上への影響の体系化に取り組み中

労働安全衛生

- 「健康経営優良法人2025(ホワイト500)」に選定

エンゲージメントの向上

- アルミホイールを活用したワークショップ・ツール「ワークショップの素™」を開発、トライアル販売開始
- **「2024年度経団連推薦社内報審査」で総合賞を受賞**

地域との共生・共創、次世代の育成

- スポーツチームへのスポンサード、協賛活動の積極展開
- 教育支援活動の継続実施

© UACJ Corporation. All rights reserved.

22

最後の3番目、企業価値の向けた取り組みということで記載してございます。

2024年度のサステナビリティ関連の活動をまとめておりますけれども、赤字で書いたところを少しこの後、紹介してまいります。NEDOの先導研究プログラムの採択、右側に2024年度経団連の社内報審査で総合賞を受賞したところです。次のページからご参照ください。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasias.com

3. 企業価値の向上

NEDO先導研究プログラム採択、低純度スクラップから高純度アルミニウムへのリサイクルの実現へ

【 1. 高度資源循環システム(アップグレードリサイクル)構築事業 】

- 2021年開始のNEDO助成事業(産学官の協業)へ参画中
- 不純物元素の低減技術、微量不純物を無害化する高度加工技術の開発を、UACJリードで目指す
- 世界初の量産化を目指す「縦型高速双ロール鋳造実験機」をR&Dセンター施設内に9月に設置完了

【目指す未来】

- ✓ 展伸材スクラップを活用した、年間20万トン規模の製造能力拡張
- ✓ アルミスクラップ資源が水平リサイクルで国内循環可能となり、地球環境へ大きく貢献
- ✓ アルミニウムのサプライチェーン上で2050年を目標に1,800万トン規模のCO₂排出量を削減



縦型高速双ロール鋳造実験機(R&Dセンター:名古屋)

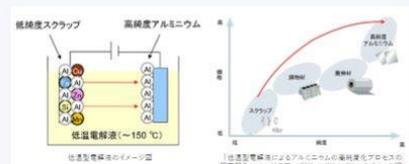
<https://www.uacj.co.jp/release/20240911.htm>

【 2. 低温型電解法によるアルミニウムの高純度化プロセスの研究開発(NEDO先導研究)が採択 】

- これまで廃棄されていた低純度アルミスクラップを、新地金相当の純度以上(99.9%)のアルミニウムへリサイクル可能とする技術(ハイアップグレードリサイクル)を、社会実装するための量産性の検証を産学官で実施(～26年度(最長))

【目指す未来】

- ✓ 廃棄されているアルミニウム資源の再利用(アルミニウム資源の国内循環)
- ✓ 現行の新地金製造方法に比較して、大幅なCO₂排出量の削減



<https://www.uacj.co.jp/release/20240823.htm>

© UACJ Corporation. All rights reserved.

23

これは第2四半期にもプレスリリースしておりますので、ここでの詳細説明は省かせていただきますが、特に国内のアルミ循環を拡大していくこと、それからCO₂を大幅に削減することでのテーマで、国と共同開発をしているというものです。

3. 企業価値の向上

「2024年度 経団連推薦 社内報審査」で総合賞を受賞

グループ広報誌「ALUMINIST」が社内報審査で総合賞を受賞 ～ものづくりの現場を重視する姿勢が高く評価～

「2024年度経団連推薦社内報審査」

- 受賞: 総合賞「ALUMINIST」53号/54号
- 主催: 一般社団法人経団連事業サービス社内報センター
- 目的: 経営に資する社内広報活動の推進を目指す、編集者の日頃の活動を評価・奨励することで、レベルアップを図る
- 審査: 発行目的・編集方針に経営環境や社会環境、自社・団体の社内広報戦略が的確に反映され、応募作品がそれをどれだけ実現できているか



総合賞の表彰状と盾

2017年以来、優秀賞、特別賞、企画賞、総合賞などを受賞してきており、2年連続で総合賞以上に選定
2024年度総合賞は、応募作品112作品の中から13作品が選出



受賞した「ALUMINIST」54号 表紙

“中期経営計画を8頁にわたり詳細に紹介しており、他社にも参考になる紙面構成”と評価された

“UACJグループ”の一員としての一体感を醸成し、組織力・経営基盤の強化を目指す

© UACJ Corporation. All rights reserved.

24

その次では、当社社内報の「経団連推薦」ご紹介をさせていただきました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



資本収益率の向上と資本コストの低減を継続し、早期にPBR1.0倍以上の実現へ



25

最後 25 ページ、こちらにつきましては資本収益率の向上、あるいは資本コストの低減を継続して早期に PBR1.0 倍を実現していこうというところでございます。

ROE の向上につきましては、2023 年度から 24 年度に向けて一定の上昇が得られましたけれども、まだまだ PBR1.0 倍にはちょっと距離があること。

資本コストの低減につきましても、23 年度 9%台から 24 年度 8%台まで低減することができたところであります。

25 年度以降、事業利益、EBITDA いずれも中計の最終目標に向けて、あるいは資本コストの低減につきましては、β 値の改善として継続的な事業領域、企業価値を向上させていくこと。それから資本市場の対応はしっかりしていくこと等々を通じて、それぞれ ROE を 9%以上、株主資本コストを 7%台に持っていきこうと、早期に PBR1.0 倍をよく超えられるように進めていきたいと考えてございます。

事業利益・Adjusted EBITDA 推移

第4次中期経営計画達成に向けて、順調に進捗。さらなる向上へ



© UACJ Corporation. All rights reserved.

26

26 ページにつきましては中計の目標値ということで記載してございます。

EBITDA も順調に伸びてきているのが足元の状況でございます。

今後のIRイベント

IR-DAY —第4次中計達成にむけて

日時 2025年5月27日(火) 9:30~12:00

登壇者

代表取締役 社長執行役員
副社長執行役員 板事業本部長
専務執行役員 TAA CEO 兼 UNA* CEO
常務執行役員 航空宇宙・防衛材事業本部長
執行役員 財務本部長
UWH President
UATH 執行役員 バンコク事務所副所長

田中 信二
橋本 圭造
Henry Gordinier
高橋 南
岡田 浩三
Mike Wegener
Teerapun Pimtong

© UACJ Corporation. All rights reserved. *UNA: UACJ North America, Inc.

27

最後のページになりますけれども、今後の IR イベントで予定しております IR-DAY、5月27日に実施の予定であります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

24

第4次中期経営計画の達成に向けてということで、アメリカ TAA あるいは UWH の責任者、あるいはバンコクの副所長も含めてこちらを実施する予定でありますので、ぜひ参加していただければと思います。

私からの決算の説明は以上となります。

上田：当社からのご説明は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質疑応答

上田 [M]：これより皆様からのご質問をお受けいたします。

それでは最初のご質問者をご紹介します。SMBC 日興証券株式会社山口様、お願いいたします。

山口 [Q]：こんにちは。SMBC の山口でございます。こんな遅くに、説明会開催していただきましてありがとうございます。

今回の決算のすごくアテンションをひく部分は、国内が恐らくロールマージンの値上げを1月の下旬に打ち出してたと思うんです。これが多分、効いてくるのかなってという一方で、TAA が結構なんかマージンでかぶってうたれてしまうような、打ち消し合ってるような内容なんですけれども。

まず国内の販売環境とか、あるいは値上げが実際に浸透していきけるかどうか。そして、先ほどのお話ですとコストは見込まれてるものを全部入れたけど、値上げは一部しか入れてないところにちょっとヒントがあるのかなと思うんですけど、このあたりどうなのか。この国内と TAA のところのマージンの考え方について教えてください。

ちなみに、いろんな指標が取れるとは思いますが、割とスクラップに対しての売値は取れてるふうに私は見えてるんですけど、いつも TAA って1クォーター、2クォーターそんな悪くない数字が出てくることも多いので、そこら辺も含めてちょっとご解説いただけますか。世の中が不透明なんでちょっと抑えられたんじゃないかと勝手に思ってますがいかがでしょう。

田中 [M]：それでは国内の販売状況、価格の値上げ等も含めて、それから TAA のマージン等につきましてのご質問だったと思います。まず、国内の状況につきましては橋本からご説明させていただきます。

橋本 [A]：橋本からご説明させていただきます。

国内はご存じの缶、自動車、それから箔、産業材ということで、缶も国内大きく増えることはありませんけれども非常に順調です。

これも発表させてもらってますけどもヨーロッパ向けの缶材が非常に旺盛で、グローバルで対応してるお客様からぜひヨーロッパ向けもと。タイからはヨーロッパ向けは関税がかかるけれど、日本からは FTA でかからないこともありまして日本からかなり出してます。それによって国内の生産

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

規模はほぼフルに近い状態で続いておりまして。そういう意味では数量増も一つ、この増益の方向性に貢献しています。

それと、今ご指摘あった値上げも1月から活動を始めてまして、一定の部分を織り込んで、それも含めるといところが国内の状況です。

コストの話につきましては人件費あるいは資材、運賃等々上がってますので、それも含めた形でそれをカバーして値上げをお願いしているという計画を見込んでいます。国内については以上です。

上田 [M]：それでは TAA の関連につきましては岡田から。

岡田 [A]：岡田からご説明いたします。

まず、TAA につきましては販売量が増加することでプラス要因という形にはなってるんですけども、やはり昨年度に比べて昨年の2クォーターぐらいから徐々にリサイクル用の原材料コストが上がってきて、2月、3月頃で高止まりをしているという状況になってます。その状況を2025年度は通期で織り込んでますので、昨年から比べますとその分の前半の部分がまたマイナスの方向に悪化するという見通しを立ててございます。

あと、大きいのが TAA でも投資が、いよいよ償却が始まりつつあるということで、昨年に比べて償却費が大きくなることで事業利益が少し落ちるといこと。

あと、為替の前提ですね。昨年度は153円の実績でしたけれども、今回の事業の予測における為替の前提が145円で見えますので、この分の為替によるマイナス、これがマイナスに効いているような内容でございます。以上です。

山口 [M]：了解いたしました。ありがとうございます。

田中 [A]：田中ですが、あわせてちょっと補足します。

今、橋本からヨーロッパ向けのという話がありましたけど、先日ちょっとヨーロッパのある大手製缶メーカーさん何社さんかと会話する機会ありました。やはりヨーロッパのほう、ガラスの容器からアルミに随分シフトしつつある状況です。

特にやっぱりエネルギー価格が相当上がってきてることで、ガラスから急速にアルミに変えていきたいというご意見もありましたので、その辺のところも今後、伸びていくところかなと考えております。補足いたしました。以上です。

山口 [M]：ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。次のご質問はモルガン・スタンレーMUFU証券株式会社の白川様、ご質問をお願いいたします。

白川 [Q]：モルガン・スタンレー証券の白川です。本日、どうもありがとうございました。質問2点よろしくをお願いいたします。

今のアメリカのところなんですけれども。足元やっぱり関税影響もあってミッドウエスト・プレミアムが相当急上昇してきておりまして。ただ一方で、先ほどお話にあった UBC の価格なんですけれども、3月までは確かに高止まりはしているんですけれども、4月、5月を見ると逆に言えば下がってきているっていうのがわれわれ、ブルームバーグから確認できる情報なんですけれども。

そうなってくると、今のこの今期の見通しの中ではそこら辺のメタルベネフィットの実は良くなっているところは織り込まれていないのかというところ。で、ちょっと足元、この UBC 価格が下がっている背景を踏まえて教えていただければと思います、というのが1点目です。

あと、2点目なんですけれども、タイに関してなんですけれども。終わった期のところでタイの輸出統計見ていると、1月、2月のところでインド向けが非常に好調でして、ちょっと今まで見たことないぐらいの数量が出ていたと思います。このインド向け、何が起きていたのかと、ちょっと3月はそこがまた落ち着いてはいたので、今年度のご予想中で、それはどう織り込んでいるかを教えていただきたいのと。

あと、中国の増値税の還付の廃止、これで引き合いが増えていますというお話でしたけれども、そういった状況を今年度どう織り込んでいるかを教えてください。以上になります。

田中 [M]：ありがとうございます。UBC の価格の推移のところですね。北米のところ。それからインド向けの輸出関連、それからその他還付の還元。いずれも板に関するところなので橋本から詳細、ご説明させていただきます。

橋本 [A]：まずはアメリカのリサイクル材、UBC の価格の話ですけども、一つ価格が若干落ち着いてるというのは、昨年度の第3四半期、中国がかなり再生塊を買ってる動きもある中で、アメリカの競合も UBC を買い始めてかなり高騰しました。

その後やはり買う側もいろいろ工夫しながら、単純に上がっていく方向ではなくてソースもいろいろ拡大するとか、第4四半期が落ち着いてる中で、その次の展開はトランプ関税によって地金が上がって、これはプレミアムをすごく上げるほうに働きました。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptasia.com

一方でリサイクル材はその影響を受けてません。関税の対象外で結局、その差分については大きく広がってきまして。今はそういう意味ではかなり安定してきてるといいますか、少しピークアウトしてると。さらに下方側に動いてるという状況が今、ご指摘のところだと思います。

そういう意味では、われわれは少しその前段階で予算を織り込んでますので、今、スタートしたりリサイクル材が下がってくる部分は、このまま継続がされればプラス側にいくだろうなという認識はしています。今の1点目、そういうお話ですね。

2点目はタイからのインド向けの話だったと思うんですけども、これは大手飲料缶メーカーさんのインド工場、こちらを納入してほしいと。元々はタイとかミャンマーでの関係だったんですけども、さらにインドも供給してほしいというのが一昨年からスタートしてまして。やはりインドの缶需要も伸びてるんですね。その中で毎年数量が増える状況で、それに対応してるというのがメインの背景です。

最後に、中国の増徴税の還付がなくなったこと。これは、かなり大きいです。還付の廃止された13%分がメタルとロールマージンも含めた全体にかかりますので、トン当たり400ドルから500ドルぐらいのインパクトになると想定されます。それを受けて中国のメーカーは値上げを年末からずっとやっていたね。中国材の値段が上がったことで、われわれにはもちろん引き合いが来ます。

これまで、価格の改定時期にちょうど当たってた契約が、元々本来もう少し高い価格で売りたいところを中国メーカーの価格設定に引っ張られていた面があります。その影響がかなり薄くなったことで今、値上げができています。24年度も一部値上げ、25年度も値上げの計画をしております、一部予算にも織り込んでると、そういう状況です。

白川 [Q]：ありがとうございます。タイのところで1点だけフォローアップです。今回、関税影響が14ページでお示しされているんですけども、ちょっと分からなかったのが、このタイの米国向けは、関税の上昇によってここは数量が下がっていくように織り込まれているのでしょうか。

橋本 [A]：25年度についてはここにあります3万トン近いものが出るんですけども、これは既にお客様が除外枠を取ってます。現在は缶材が不足してまして、25年度いっぱいはいまのまま契約どおり供給を続けてほしいと言われてますので、まず影響は、今年度はないと。

来年度以降はちょっと分かりませんので関税次第ですけども。これについては仮になくなった場合は、先ほどのインドだとか、豪州だとか、アフリカだとかで対応していく形で、バックアップを考えているのが今、タイの状況です。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

白川 [M]：分かりました。ありがとうございます。

田中 [A]：タイについては、その記載のとおりなんですけれども、2025年度については、ほぼほぼフラットで大丈夫でしょう。

来年度以降については、ちょっと先が読めませんので当然この中に織り込んでおりませんが、対応する先としては、インドであったりの確保がありますので、そういったところでカバーできるだろうとは考えております。

白川 [M]：ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございます。では、次のご質問者の方、野村証券株式会社の松本様、お願いいたします。

4. ご参考

海外主要子会社 業績推移

(単位:億円)

	2023年度							2024年度							2025年度
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
UATH															
販売量(千トン)	62	65	126	65	65	130	257	72	77	149	78	79	157	306	336
売上収益	340	352	692	366	367	734	1,426	453	494	947	521	546	1,067	2,014	2,232
営業利益	△ 14	0	△ 13	15	4	18	5	52	7	59	△ 5	0	△ 5	54	30
(棚卸資産影響)	△ 14	△ 1	△ 15	4	△ 11	△ 6	△ 21	33	△ 4	29	△ 11	2	△ 9	20	△ 11
事業利益	0	1	1	10	14	25	26	19	11	30	6	△ 2	4	34	41
TAA															
販売量(千トン)	98	110	208	103	122	225	433	109	118	227	106	116	222	449	480
売上収益	570	648	1,219	595	722	1,317	2,536	713	721	1,434	685	798	1,483	2,917	3,070
営業利益	66	34	101	36	63	99	200	107	75	181	73	74	147	328	189
(棚卸資産影響)	△ 7	△ 38	△ 45	△ 24	△ 6	△ 30	△ 75	24	△ 2	22	21	36	57	79	1
事業利益	73	73	146	60	69	129	275	83	77	160	52	37	89	249	188
UWH															
売上収益	105	104	210	100	107	207	417	101	93	195	84	96	180	375	388
営業利益	1	2	3	4	4	8	11	4	2	6	△ 2	5	3	9	17
(棚卸資産影響)	2	4	6	1	0	1	7	△ 1	0	△ 2	0	△ 3	△ 3	△ 5	0
事業利益	△ 1	△ 2	△ 3	3	4	7	4	5	3	8	△ 2	8	6	14	17

© UACJ Corporation. All rights reserved.

30

松本 [Q]：野村証券の松本でございます。よろしく申し上げます。

1点目はタイの件ですけれども、資料の30ページでは、UATHは下期に4億円しか事業利益が出てなくて、今期は40億円出ると。その辺はどう考えたらいのかちょっと教えていただけますか。

あと、2点目は、アメリカのマーケットは需要がそれなりにしっかりしてるような感じなんですけれども、いろんな制度が動いたり、価格が関税で入って上がるような局面って結構サプライチャー

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ンで買いためみたいなのがこったりしないのかなってというのがちょっとありまして。その辺、今、どういう見解をお持ちかというのを教えてください。以上です。

橋本 [M]：30 ページのタイの下期のところですが、若干落ちてるのは、一つは先ほどのリサイクル材のコストですね。アルミ缶のリサイクル材のコスト、先ほど UBC というコメントがありましたけど、そこが上がったのが第 3 クォーターで、第 4 クォーターはちょっと落ちついてますけどもその影響が一つあります。

それと、もう一つは為替ですね。この時期、パーツ高にちょっとなってますのでその影響と、第 4 クォーターは 1 月、2 月で出荷量が少なかった影響と。あと、一部 3 月末で経費が少し大きくなっている部分がありますので、その影響が第 4 クォーターにあるということが背景です。

その点は、逆に第 1 クォーター以降は UBC 価格が落ち着いてきてるところがありますし、4 月、5 月から本格的に出荷も始まりますので、第 4 クォーターのようなことはないと考えております。

橋本 [A]：後半の、アメリカの缶材マーケットのご質問については、買いためをすれば、アルミの地金のコストが上がるので先に缶を作っておくとか、あるいは関税でということだと思えますけども、今、アメリカ国内はもうぎりぎり回ってるんですね。どちらかというとアメリカ国内で缶材を供給しきれないので、外から缶材が入ったり。こういう状況からすると、この先を読んでコストが高いから買いためっていう形は難しい状況ですし、われわれも見てる限りではそういう現象は起こってないと捉えています。

田中 [Q]：あわせて増徴税の還付が停止になったとき、中国勢は値上げをするだろうということで、そういうちょっと動きがありましたよね。

橋本 [A]：中国はキャパありますので、そこは前倒しで年末入ったってというのはあります。そこは今、落ち着いています。

松本 [M]：分かりました。ありがとうございました。以上です。

上田 [M]：ご質問、ありがとうございました。では、次のご質問者の方は UBS 証券株式会社の五老様です。

五老 [Q]：UBS 証券の五老です。よろしく申し上げます。中計スタート 1 年目を終えてということで、それに関して 2 点お願いしたいです。

そもそもの今回の中計の立て付けとしては、数量は元のレベルに復旧するということで、量的成長を追っかけるよりは、プレミアムマージンをしっかり取っていくという成長戦略だったと理解し

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com



ています。リサイクル材の活用もそうですし、グリーン戦略といいますか、プレミアムでしっかりそういうところを確保していく流れだと思います。

1年目、国内事業はあまり利益、当初のところから変化はなかったかなと思うんですけども、新年度はここで増益を見てらっしゃるところもあるかなと思います。

このマージン改善への取り組みのところで今回、ロールマージンの改定、1月に打ち出したというところもあるんですけども、今後、中計の最終年度に向けてまだ2年ありますけれども、このマージン改善のトレンドで取り組む余地がどう残ってるか、というところを解説していただければと。これが1点目です。

あと、2点目が中計の中で唯一減益ターゲットだったのがTAAなのかなと思います。元々の出発点からすると65億の減益計画。で、1年目に結構大きく減益してその後は微減益が元々のシナリオだったと思うんですが。

今回、期初なので保守的要素は入るのかなとは思いますが188億円というターゲットだとすると、中計の元々の計画値210億円をだいぶ下回ることになってしまうのかなと思います。内容は先ほどご説明いただいたんですけども、中計下振れでこのまま無策なのかなというところが気になるところです。

もちろん実態はマージン改善余地もあると思いますし、数量も関税のプラス側の効果もあるのかなと思うんですけども、TAAの業績が来年度以降ターンアラウンドしてくるという見せ方にできるかどうか、投資効果も出てくるかと思いますが、このあたり解説いただければと思います。よろしくをお願いします。

田中 [M]：今、2点ご質問いただきました。国内のところ、特にリサイクルを中心とした計画がいろいろあって、マージン改善の余地についてどうかという点。それから北米TAAですね、TAAの今後に向けての計画についてのご質問だったと思います。これも橋本から、まず国内ですね。

橋本 [A]：まさにマージンの改善をこの数年取り組んでるのはご理解のとおりなんですけども、やはり、まずコストですね。人件費、労務費、運賃が全体的に上がっていきますので、その部分はお客様に理解をいただいてですね。今まで毎年の頻度ではなかなか値上げのお願いは難しかったんですけども、最近やはり毎年そういうコストも上がってますので、非常に頻度が必要になってるので、そこら辺の理解も含めてマージン改善は進めています。

数量を無理に取らないところがそういう意味では必要になってくるわけですけども、先ほど言いましたように、輸出ではヨーロッパ向けは非常に強いですし、こちら価格が非常に良くなっていま

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptasia.com



すので、そういう意味では数量も押さえながら国内はきちっとマージンを改善していくというところを継続的に進めていますので、中計の最終年に向けて、継続して改善していく方向性で考えております。

2点目は、リサイクル率を高める、あるいは水力地金を活用するといった環境対応は、お客様からのニーズも非常に増えてまして、それにあわせて、リサイクル材を50%あるいは80%使ったものを作り、そのプレミアムをいただきながらというのが始まっています。

これは、お客様が2030年に向けてScope3を30%減らさなければいけないという方向性の中で、アルミがかなりそこに貢献することでターゲットになっています。対象も増えてますので、そこはまさに進めているところでございます。

田中 [Q]：TAAの中計からの差異については、岡田から。

岡田 [A]：元々210億円の中計での目標に対して、ターンアラウンドできるのかというご質問かと思えます。

2025年度につきましては、需要は非常に強いので、設備をしっかりと計画どおり立ち上げながら、対応していくところだと思います。一方、為替は、今年度は昨年度に比べて円高のため、マイナス影響が出てきます。また、今年度は減価償却費が増加しますので、事業利益に対しては少しマイナスの方向にはなりません。それに対して、販売数量を増やししながら、UBCコストの上昇に対しても使用量を増やして「面積」を取るなど、色々な施策を打ちながら、事業利益をしっかりと拡大させていきたいと考えております。

川島 [A]：元々、中期経営計画ではTAAの能力増強を計画していますが、これが中期経営計画の途中から効いてきます。今年度計画の188億円の中には、これは効いてきません。年間の能力が増強できるのが2026年になります。2027年にはTAAの生産能力は5万トンほど増えますので、増量効果を取れます。

それから今回、リサイクル設備への投資をしています。UBCの単価の問題もあるんですけども、それ以上にUBCを使って「面積」を増やす。それによって利益を上げる。UBC価格は上がっていると申しましたけども、元々中期経営計画の中でもUBC価格のアップは見込んでいます。

ただ、いつ価格が上がるか分からなかったから、中期経営計画の割と最後に織り込んでいました。それがちょっと前倒しで、きているということですので、TAAについて今年度は188億円という数字で出していますが、全体としては大きく変わってないと考えてはおります。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

田中 [A]：今、川島からあったように、熱延を中心とした能力増強、それからリサイクル率の向上が、この後、利益率を高めていく要素になると考えてます。

五老 [M]：よく分かりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。では、そろそろ予定のお時間になりましたので、ご質問もございませんので、本日の説明会はこれで終了させていただきたいと思います。

また、今後のお問い合わせにつきましては IR 部までお願いいたします。

以上をもちまして、株式会社 UACJ 2024 年度決算説明会を終了いたします。本日はご参加いただきありがとうございました。

[了]

脚注

1. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com